

総 括 編

管内の概要	1
圏域の紹介	2 ～ 3
管内図と庁舎の現況	4 ～ 5
消防の歴代管理者	6 ～ 7
消防本部、消防署の組織	8
消防本部、消防署の事務分掌	9 ～ 11
消防相互応援協定の状況	11
消防本部の沿革	12 ～ 20

甘木・朝倉消防本部の基本方針

めざそう 住民の安全 そして安心

重点施策事項

- 1 住民のニーズに応える防災情報の提供
- 2 住民のための消防行政サービスの徹底
- 3 事務の簡素化・効率化と活力ある職場作りの推進
- 4 自己意識の改革（態度・服装・笑顔・傾聴）と実行
- 5 報告・連絡・相談・的確な指示の徹底
- 6 体力・身心の強化と健康の保持増進
- 7 安全管理で明るく楽しい快適な職場環境の維持

職 員 綱 領

- 1 吾等消防職員は職責を自覚し、規律の保持につとめよう。
- 2 吾等消防職員は身心の鍛錬に励み、知識技術の向上をはかろう。
- 3 吾等消防職員は和合の精神をもって団結し、親しまれる

消防人になろう。

（甘木・朝倉消防職員綱領全文より抜粋）

事故防止一斉唱和

- 1 安全呼称の徹底
- 2 左右確認・最徐行の徹底
- 3 赤信号、一旦停止の徹底
- 4 車両誘導は確実に
- 5 優先通行権を過信しない

管内の概要

● 位置

福岡県の中央部、福岡市の南東約40km、久留米市の北東約20kmの場所に、組合消防を構成する中核の朝倉市が位置し、東に東峰村、西に筑前町の3市町村、管内人口8万8千9百人からなる。

● 地勢

管内を北西から南東へと貫く最重要幹線道路である国道386号線から南側は盆地となっているが、同道路から北側、すなわち市域北部から北東部～東部にかけて古処山をはじめとする600～900m級の山々が連なる。この山地の中に福岡市など周辺地区への水資源供給の役割を担う寺内ダム・江川ダムがある。

また、圏域の南側には、境界にほぼ沿う形で筑後川が流れている。

● 観光

全国疏水百選の「堀川用水」は、筑後川から取水する山田井堰、人によって掘られた堀川、水面より高い水田を潤す水車群などからなり、農業や地域を振興し文化や伝統を育み、農村風景に調和しています。

堀川用水のはじまり山田井堰は、恵蘇八幡宮のすぐ前の筑後川に築造されています。この堰は、1790年（寛政2年）今の傾斜堰石張堰となったとき、舟通し・魚道・砂利吐きを設けた優れた特徴があり、全国に類を見ない歴史的にも貴重なものです。

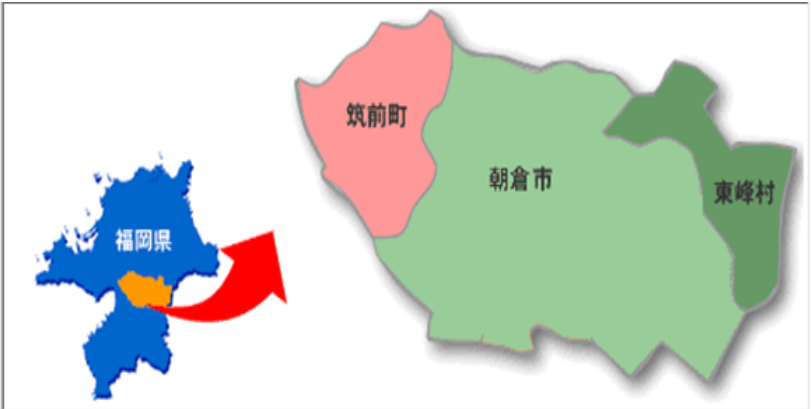
また、日本最古の実動する水車として、夏の風物詩として、全国的にも有名な「朝倉の揚水車群」は、平成2年に「堀川用水」と共に国の史跡に指定されています。



朝倉の三連水車

甘木・朝倉広域市町村圏事務組合

- 人 口 88,981 人
- 世帯数 31,363 世帯
- 面 積 365.84 Km²



甘木・朝倉圏域は、福岡県のほぼ中央部に位置し、朝倉市・筑前町・東峰村の3市町村で構成されている地域です。地域の形状は東西に長く、西に小郡市や筑紫野市・東に大分県日田市、北に嘉麻市、南にうきは市と接しています。

朝 倉 市

- 人 口 57,276 人
- 世帯数 20,486 世帯
- 面 積 246.73 Km²



秋月の紅葉

筑後川北岸に広がる朝倉市は、三連水車などでも知られるのどかな田園都市。その豊かな自然は、博多万能ネギ、柿や梨といったフルーツ、全国でも希少な淡水ノリ「スイゼンジノリ」などの特産品を生み出してくれます。また、筑前の小京都と称される城下町「秋月」や、夏の風物詩「鵜飼い」が有名な原鶴温泉など、来訪者を魅了する多彩な観光資源も魅力の一つです。

東 峰 村

- 人 口 2,477 人
- 世帯数 918 世帯
- 面 積 51.93 Km²



夏の棚田親水公園

東峰村は、歴史と文化の息づく緑豊かな村です。伝統工芸の小石原焼。日本の棚田百選にも選ばれた、竹地区の美しい棚田。炭鉱の歴史や、山村文化を紹介する「いぶき館」などがあります。また四季の彩りも豊かで春先の新緑に続き5月下旬から6月中旬には蛍が乱舞。夏真っ盛りの親水公園河川プールは子どもたちで大賑わい。秋の訪れとともに国道211号線は紅葉ロードとなり、冬には都会では見られない雪景色を楽しむことができます。

筑 前 町

- 人 口 29,228 人
- 世帯数 9,959 世帯
- 面 積 67.18 Km²



大刀洗平和祈念館

町章は、「ち」の文字を基調に、未来に躍動する人を象徴。「食に感謝し、平和を願う町」を掲げています。米・麦・大豆の生産量は多く、「都会から近い田舎」が誇りです。2011年には食の都づくり宣言を行い、食に関する取り組みを推進。ファーマーズマーケットみなみの里には、連日多くの人々が地元の食材を買いに訪れます。また、かつての大刀洗飛行場跡地に町立大刀洗平和記念館を建設。平和の大切さを後世に語り継いでいきます。

管内図と庁舎の現況

西部分署



所在地 朝倉郡筑前町下高場3599番地3
敷地面積 2,000.59㎡
構造 鉄筋コンクリート造2階建
延面積 435.12㎡
管轄区域 筑前町
位置 東経 130°36'02"
北緯 33°27'04"



甘木・朝倉消防本部 甘木・朝倉消防署



所在地 朝倉市一木18番地20
敷地面積 7,054.86㎡
構造 鉄筋コンクリート造3階建
延面積 2,332.76㎡
管轄区域 朝倉市・朝倉郡一円
位置 東経 130°39'53"
北緯 33°24'23"

東出張所



所在地 朝倉郡東峰村大字小石原鼓 837 番地 11
敷地面積 1,659.80㎡
構造 鉄筋コンクリート造鋼板葺 2 階建
延面積 576.73㎡
管轄区域 東峰村
位置 東経 130° 51' 00"
北緯 33° 25' 05"

東部分署



所在地 朝倉市杷木寒水 92 番地 1
敷地面積 1,567.55㎡
構造 鉄筋コンクリート造 2 階建
延面積 464.12㎡
管轄区域 朝倉市杷木地域
位置 東経 130° 48' 34"
北緯 33° 21' 45"

朝倉出張所



所在地 朝倉市宮野 2142 番地 2
敷地面積 1,833.00㎡
構造 鉄筋コンクリート造 2 階建
延面積 380.18㎡
管轄区域 朝倉市朝倉地域
位置 東経 130° 43' 25"
北緯 33° 23' 01"

消防の歴代管理者

甘木市消防本部（昭和40年3月1日 ～ 昭和51年9月30日）

市 長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在 任 期 間	備 考
初 代	塚 本 倉 人	昭和 40年 3月 1日	昭和 47年 11月 17日	7 年 9 月	
二 代	富 田 英 一	昭和 47年 11月 18日	昭和 51年 5月 21日	3 年 7 月	
三 代	塚 本 倉 人	昭和 51年 6月 20日	昭和 51年 9月 30日	4 月	

消防長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在 任 期 間	備 考
初 代	塚 本 倉 人	昭和 40年 3月 1日	昭和 42年 12月 21日	2 年 10 月	事務取扱
二 代	高 橋 清 美	昭和 42年 12月 22日	昭和 49年 6月 10日	6 年 6 月	
三 代	山 崎 房 美	昭和 49年 6月 11日	昭和 51年 9月 30日	2 年 4 月	

消防署長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在 任 期 間	備 考
初 代	高 橋 清 美	昭和 40年 3月 5日	昭和 48年 11月 30日	8 年 9 月	
二 代	山 崎 房 美	昭和 48年 12月 1日	昭和 51年 9月 30日	1 年 10 月	

甘木・朝倉消防本部（昭和51年10月1日 ～ 現在）

理事長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在 任 期 間	備 考
初 代	塚 本 倉 人	昭和 51年 10月 1日	昭和 63年 6月 19日	11 年 9 月	甘木市長
二 代	友 納 昭 智	昭和 63年 6月 20日	平成 3年 3月 28日	2 年 9 月	甘木市長
三 代	中 島 茂 嗣	平成 3年 5月 7日	平成 8年 5月 15日	5 年 0 月	甘木市長
四 代	佐 藤 誠 良	平成 8年 7月 14日	平成 12年 7月 13日	4 年 0 月	甘木市長
五 代	塚 本 勝 人	平成 12年 7月 19日	平成 18年 3月 19日	5 年 8 月	甘木市長
		平成 18年 5月 2日	平成 22年 4月 22日	3 年 11 月	朝倉市長
六 代	森 田 俊 介	平成 22年 4月 23日	在職中		朝倉市長

副理事長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在 任 期 間	備 考
初 代	藤 原 重 実	昭和 51年 10月 1日	昭和 54年 4月 30日	2 年 7 月	朝倉町長
二 代	林 一 二 三	昭和 54年 5月 14日	昭和 62年 4月 9日	7 年 11 月	杷木町長
三 代	徳 田 善 友	昭和 62年 5月 7日	平成 元年 7月 23日	2 年 3 月	夜須町長
四 代	藤 井 金 與	平成 元年 8月 3日	平成 3年 4月 30日	1 年 9 月	朝倉町長
五 代	稲 永 勝 己	平成 3年 5月 7日	平成 7年 4月 30日	3 年 11 月	三輪町長
六 代	熊 谷 昭 巳	平成 7年 5月 12日	平成 11年 4月 30日	3 年 11 月	杷木町長
七 代	手 柴 豊 次	平成 11年 5月 12日	平成 17年 3月 21日	5 年 10 月	三輪町長
		平成 17年 5月 19日	平成 21年 4月 23日	3 年 11 月	筑前町長
八 代	田 頭 喜 久 己	平成 21年 5月 20日	在職中		筑前町長

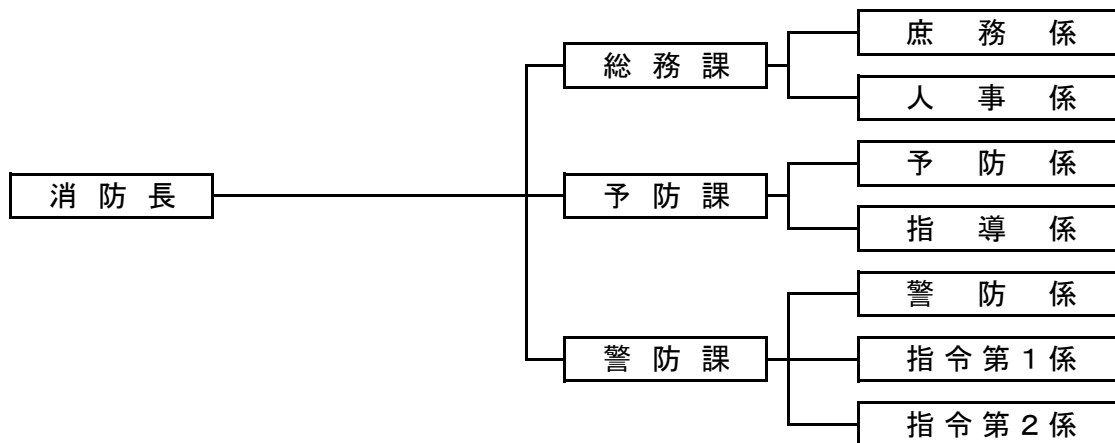
消防長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在 任 期 間
初 代	山 崎 房 美	昭和 5 1 年 1 0 月 1 日	昭和 5 3 年 3 月 3 1 日	1 年 6 月
二 代	白 石 公 海	昭和 5 3 年 4 月 1 日	昭和 5 7 年 2 月 2 8 日	3 年 1 1 月
三 代	山 田 昌 實	昭和 5 7 年 3 月 1 日	昭和 6 3 年 3 月 3 1 日	6 年 1 月
四 代	空 閑 道 雄	昭和 6 3 年 4 月 1 日	平成 4 年 3 月 3 1 日	4 年 0 月
五 代	立 石 新	平成 4 年 4 月 1 日	平成 8 年 3 月 3 1 日	4 年 0 月
六 代	西 岡 隆 士	平成 8 年 4 月 1 日	平成 1 1 年 2 月 1 0 日	2 年 1 1 月
七 代	川 藤 市 郎	平成 1 1 年 2 月 1 1 日	平成 1 5 年 3 月 3 1 日	4 年 1 月
八 代	金 子 義 郎	平成 1 5 年 4 月 1 日	平成 1 9 年 3 月 3 1 日	4 年 0 月
九 代	舟 木 潤 一	平成 1 9 年 4 月 1 日	平成 2 2 年 3 月 3 1 日	3 年 0 月
十 代	和佐野 一 文	平成 2 2 年 4 月 1 日	平成 2 3 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十 一 代	竹 井 隆	平成 2 3 年 4 月 1 日	在 職 中	

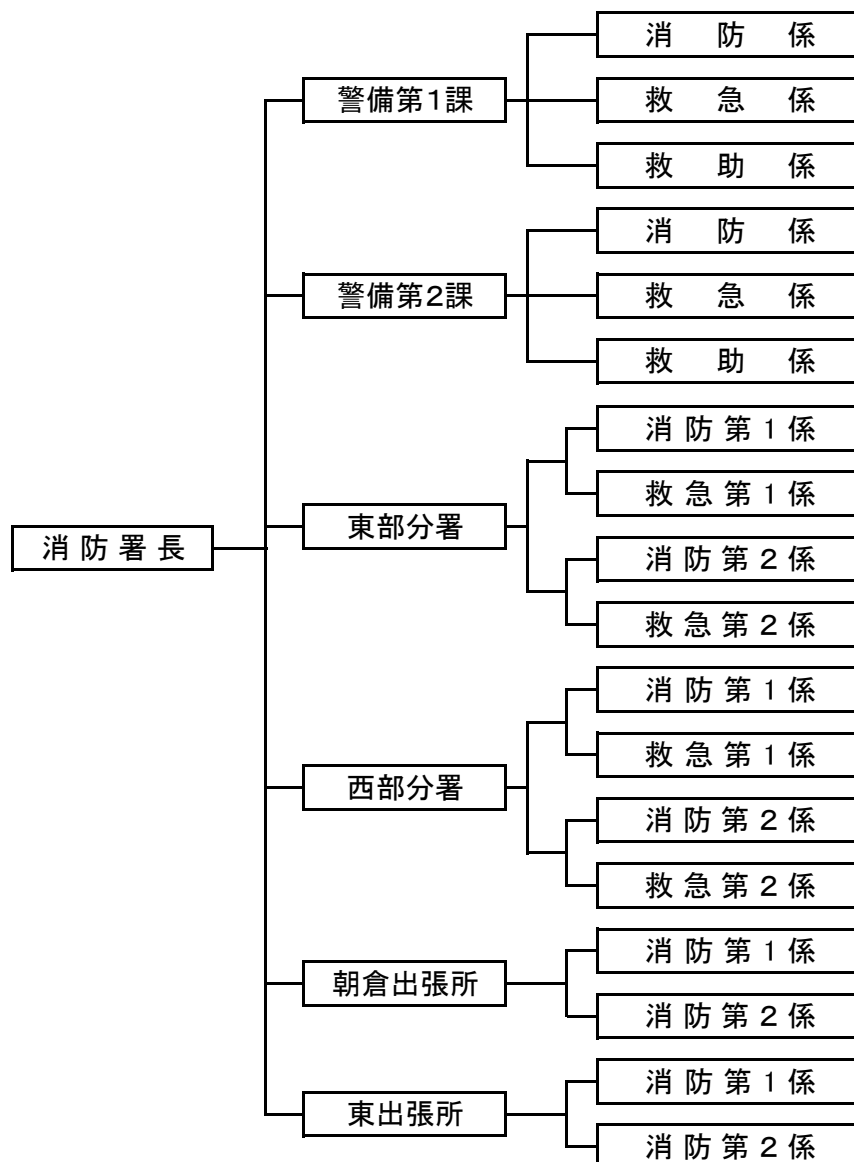
消防署長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在 任 期 間
初 代	山 崎 房 美	昭和 5 1 年 1 0 月 1 日	昭和 5 2 年 1 0 月 3 1 日	1 年 1 月
二 代	山 田 昌 實	昭和 5 2 年 1 1 月 1 日	昭和 5 5 年 3 月 3 1 日	2 年 5 月
三 代	空 閑 道 雄	昭和 5 5 年 4 月 1 日	平成 元 年 3 月 3 1 日	9 年 0 月
四 代	立 石 新	平成 元 年 4 月 1 日	平成 4 年 3 月 3 1 日	3 年 0 月
五 代	川 島 勝 治	平成 4 年 4 月 1 日	平成 8 年 1 0 月 3 1 日	4 年 6 月
六 代	川 藤 市 郎	平成 8 年 1 1 月 1 日	平成 1 0 年 3 月 3 1 日	1 年 5 月
七 代	立 野 紀 幸	平成 1 0 年 4 月 1 日	平成 1 2 年 3 月 3 1 日	2 年 0 月
八 代	金 子 義 郎	平成 1 2 年 4 月 1 日	平成 1 3 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
九 代	立 野 紀 幸	平成 1 3 年 4 月 1 日	平成 1 4 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十 代	金 子 義 郎	平成 1 4 年 4 月 1 日	平成 1 5 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十 一 代	林 武 好	平成 1 5 年 4 月 1 日	平成 1 9 年 3 月 3 1 日	4 年 0 月
十 二 代	大 場 豊	平成 1 9 年 4 月 1 日	平成 2 0 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十 三 代	野 村 良 和	平成 2 0 年 4 月 1 日	平成 2 2 年 3 月 3 1 日	2 年 0 月
十 四 代	小 島 誠	平成 2 2 年 4 月 1 日	平成 2 3 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十 五 代	大 熊 勝 徑	平成 2 3 年 4 月 1 日	在 職 中	

消防本部の組織



消防署の組織



消防本部、消防署の事務分掌

消防本部

総務課

庶務係

- (1) 例規及び令達に関すること。
- (2) 文書の審査及び收受・発送に関すること。
- (3) 予算に関すること。
- (4) 物品の出納保管に関すること。
- (5) 契約に関すること。
- (6) 財産に関すること。
- (7) 公印に関すること。
- (8) 消防施設に関すること。
- (9) 車両等の燃料の管理に関すること。
- (10) 消防事務の総合企画及び調整に関すること。
- (11) 庁舎に関すること。
- (12) 課の庶務に関すること。
- (13) その他各課、係に属しないこと。

人事係

- (1) 職員の任免、服務、分限及び懲戒その他身分に関すること。
- (2) ほう賞及び表彰に関すること。
- (3) 職員の給与及び福利厚生に関すること。
- (4) 職員の教養、監察に関すること。
- (5) 職員の公務災害及び賞じゅつに関すること。
- (6) 渉外に関すること。
- (7) 職員の給与品及び貸与品に関すること。
- (8) 消防職員委員会に関すること。

予防課

予防係

- (1) 課の庶務に関すること。
- (2) 危険物の規制に関すること。
- (3) 少量危険物及び指定可燃物の規制に関すること。
- (4) 液化石油ガス販売事業許可の意見書交付に関すること。
- (5) 危険物取扱者に関すること。
- (6) 防災協会に関すること。
- (7) その他危険物等の火災予防に関すること。

指導係

- (1) 建築物の同意事務に関すること。
- (2) 防火対象物の消防用設備等に関すること。
- (3) 防火管理者に関すること。
- (4) 旅館、ホテル等の通知書の交付に関すること。
- (5) 防火思想の普及宣伝の計画及び実施に関すること。

- (6) 火災の調査に関すること。
- (7) 幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブの育成指導に関すること。
- (8) 自衛消防隊等の育成指導に関すること。
- (9) 消防設備士会に関すること。
- (10) 予防統計及び広報に関すること。
- (11) その他火災予防に関すること。

警防課

警防係

- (1) 課の庶務に関すること。
- (2) 警防業務の運営及び管理に関すること。
- (3) 警防事務の調査研究及び企画立案に関すること。
- (4) 消防機械器具施設の企画整備及び管理に関すること。
- (5) 消防機械器具等の改良考案に関すること。
- (6) 消防の応援協定に関すること。
- (7) その他警防に関すること。

指令第1係、指令第2係

- (1) 消防統計及び消防情報に関すること。
- (2) 気象に関すること。
- (3) 火災警報に関すること。
- (4) 非常招集に関すること。
- (5) 通信指令に関すること。

消 防 署

警備第1課 ・ 警備第2課

消防係

- (1) 課の庶務に関すること。
- (2) 職員の服務規律に関すること。
- (3) 職員及び消防団員等の訓練指導に関すること。
- (4) 火災統計に関すること。
- (5) 広報に関すること。
- (6) 庁舎及び備品等の維持管理に関すること。
- (7) 危険物規制事務の指導に関すること。
- (8) 少量危険物及び指定可燃物の規制事務の指導に関すること。
- (9) 火災等の原因及び損害の調査に関すること。
- (10) 防火対象物の消防用設備等の指導に関すること。
- (11) 予防査察に関すること。
- (12) 火災予防の実施及び指導に関すること。
- (13) 諸証明及び各種届出に関すること。
- (14) その他警備に関すること。

救急係

- (1) 救急統計に関すること。
- (2) 救急機械器具施設の運用及び整備保全に関すること。
- (3) 救急に関すること。

救助係

- (1) 救助統計に関すること。
- (2) 潜水に関すること。
- (3) 消防機械器具施設の運用及び整備保全に関すること。
- (4) 水・火災、その他災害の予防警戒及び防ぎよに関すること。
- (5) 警防計画及び訓練に関すること。
- (6) 消防対象物の調査指導に関すること。
- (7) 消防特別警戒に関すること。
- (8) 地理水利に関すること。
- (9) 救助に関すること。

分署 ・ 出張所

消防第1係、消防第2係、救急第1係、救急第2係

- (1) 警備第1・2課、消防係、救急係、救助係に同じ。

消防相互応援協定の状況

協 定 名	協 定 市 町 村	締 結 年 月 日	協 定 の 内 容
高速自動車道における消防相互応援協定	福岡県下16消防本部	昭和61年10月15日	火災・事故発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
福岡県消防相互応援協定	福岡県内の全市町村全消防本部	平成 元年 3月25日	県内において大規模な災害が発生した場合に広域応援体制を確立することにより、災害による被害を最小限に防止する
隣接常備消防相互応援協定	日田玖珠広域行政事務組合	平成 2年 2月26日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
消防相互応援協定	田川地区消防組合	平成 5年 6月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
消防相互応援協定	飯塚地区消防組合	平成 6年12月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
常備消防相互応援協定	久留米広域市町村圏事務組合	平成21年 4月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
常備消防相互応援協定	筑紫野太宰府消防組合	平成21年 4月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する

消防本部の沿革

年 次		主 な で き ご と
昭和40年	3月	○甘木市消防本部（署）創設、市長が消防長事務取扱 ○甘木市消防本部（署）発足 ○職員20名採用
	4月	○幹部職員5名採用 ○仮庁舎にて業務開始
	10月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入 ○救急業務任意実施
昭和41年	1月	○消防庁舎完成移転
	9月	○財団法人日本船舶振興会、財団法人日本消防協会、甘木ライオンズクラブ出資により救急自動車の寄贈を受ける
	11月	○消防専用無線（中短波）基地局1局、移動局1局開局
昭和42年	1月	○甘木市危険物安全協会発足
	3月	○消防庁長官表彰旗を受賞 ○筑後地区消防設備士会甘木部会発足
	10月	○社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔BD－Ⅰ型〕の寄贈を受ける
	12月	○消防専用無線（中短波）移動局1局増設
昭和43年	4月	○救急業務開始（指定実施）
	11月	○職員4名採用 職員29名となる
昭和44年	3月	○職員1名退職
	4月	○職員1名採用
	8月	○消防長を専任とし、消防署長兼務とする
昭和45年	5月	○有線放送マイクサイレン設置
昭和46年	4月	○職員7名採用 職員36名となる
	6月	○甘木市危険物安全協会を甘木・朝倉危険物安全協会に改名 ○甘木市少年消防クラブ結成発足
	10月	○三輪町の救急業務を受託
昭和47年	3月	○社団法人日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受ける
	5月	○事務職員1名採用 職員37名となる
昭和48年	1月	○甘木ロータリークラブより救急自動車の寄贈を受ける
	6月	○職員7名採用 職員44名となる
	11月	○職員2名採用 職員46名となる
	12月	○消防長の署長兼務を解き、消防長・署長の専任制をとる ○朝倉町の救急業務を受託
昭和49年	1月	○消防専用無線（超短波）基地局1局、移動局5局開局

年 次		主 な で き ご と
昭和49年	3月	○甘木市少年消防クラブ、県知事表彰を受賞
	6月	○職員1名退職（他消防本部へ転出）職員45名となる
	7月	○夜須町の救急業務を受託
		○職員1名退職（他消防本部へ転出）職員44名となる
昭和50年	1月	○甘木・朝倉危険物安全協会より防火広報車の寄贈を受ける（予防課配置）
	3月	○化学消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置）
		○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より表彰旗受賞
	4月	○職員2名採用 職員46名となる ○開庁10周年記念式典開催
昭和51年	3月	○甘木市少年消防クラブ、日本防火協会表彰を受ける
	4月	○福岡県消防学校へ教官として1名派遣（1年間）
	10月	○甘木・朝倉広域市町村圏事務組合消防発足
	12月	○社団法人日本損害保険協会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける （西部分署配置）
昭和52年	1月	○職員12名採用 職員58名となる
	3月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕2台購入（東部・西部分署配置） ○消防救急指令装置導入
	4月	○東部分署開庁（仮庁舎） ○職員17名採用 職員75名となる ○福岡県消防学校へ教官として1名派遣（2年間）
	8月	○東部分署新庁舎へ移転 ○テレオートガイド装置によるテレホンサービス開始
	10月	○潜水救助隊実働開始
	11月	○社団法人日本損害保険協会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける （朝倉出張所配置） ○通信専従員任命
	12月	○西部分署開庁
昭和53年	3月	○職員1名退職 職員74名となる
	4月	○職員1名採用 職員75名となる ○職員8名採用 職員83名となる
	6月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入（朝倉出張所配置）
	7月	○朝倉出張所開庁 ○司令車2台購入（東部分署・西部分署配置）
	8月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置）

年 次		主 な で き ご と
昭和53年	10月	○職員1名退職、5名採用 職員87名となる
	12月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（本署配置）
昭和54年	2月	○社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔BD－Ⅰ型〕の寄贈を受ける（本署配置） ○消防用無線中継局開局
	3月	○人員輸送車購入（総務課配置）
	4月	○福岡県消防学校へ教官として1名派遣（1年間）
	6月	○甘木ライオンズクラブよりレサシアン1体寄贈を受ける
	10月	○甘木・朝倉危険物安全協会より査察車の寄贈を受ける（予防課配置） ○辻婦人防火クラブ（昭和46年4月4日発足）の事務局を消防本部に移管
	11月	○甘木朝倉少年婦人防火委員会発足
昭和55年	5月	○職員1名退職 職員86名となる
	6月	○資材運搬車〔2tトラック〕購入（本署配置） ○救命ゴムボート購入
	9月	○司令車購入（朝倉出張所配置）
	11月	○財団法人日本防火協会より防火広報車の寄贈を受ける（予防課配置）
昭和56年	2月	○辻婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より小型動力ポンプの寄贈を受ける
	3月	○消防本部（署）庁舎建設用地購入 ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良表彰を受ける
	7月	○消防本部広報誌「こちら119」創刊号発行（年2回発行とする）
	11月	○三奈木婦人防火クラブ発足
昭和57年	2月	○職員2名退職 職員84名となる ○職員1名退職（福岡県消防学校へ転出）職員83名となる
	3月	○消防本部（署）新庁舎完成移転 ○無線によるサイレン制ぎょ開始
	4月	○事務連絡車購入（総務課配置）
	8月	○司令車購入（本署配置）
	9月	○三奈木婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より小型動力ポンプの寄贈を受ける
昭和58年	4月	○職員8名採用 職員91名となる
昭和59年	2月	○三奈木婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より昭和58年度定例表彰を受ける
	6月	○職員1名退職 職員90名となる
	9月	○高圧ガス製造施設完成
	12月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（東部分署配置）

年 次		主 な で き ご と
昭和60年	1月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置）
	4月	○開庁20周年記念式典開催 ○消防本部「20年のあゆみ」発行
昭和61年	2月	○はしご付消防ポンプ自動車〔15m級〕購入（本署配置）
	3月	○甘木ライオンズクラブより救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（西部分署配置）
	4月	○庁用車購入（総務課配置）
昭和62年	2月	○大分自動車道一部開通（鳥栖～朝倉）に伴う救急業務開始 ○社団法人日本自動車工業会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（本署配置）
	5月	○建設省九州地方建設局主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字古毛）
	11月	○職員1名退職 職員89名となる
昭和63年	3月	○救助工作車購入（本署配置） ○職員1名退職 職員88名となる ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良少年消防クラブ表彰を受ける
	4月	○職員3名採用 職員91名となる
	11月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（朝倉出張所配置）
平成2年	3月	○大分自動車道一部開通（朝倉～日田）に伴う救急業務開始 ○社団法人日本自動車工業会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（本署配置）
	4月	○職員4名採用 職員95名となる
	8月	○職員1名理事長事務部局に出向 実員94名となる
	9月	○社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔CD－Ⅰ型〕の寄贈を受ける（本署配置）
平成3年	4月	○職員6名採用 職員100名となる
	5月	○甘木・朝倉危険物安全協会より予防指導車の寄贈を受ける（予防課配置）
	6月	○筑後地区消防設備士会甘木部会より視聴覚資材〔オートスライドプロゼクター〕の寄贈を受ける（予防課配置）
	12月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（西部分署配置）
平成4年	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（西部分署配置）
	3月	○職員1名退職 職員99名となる ○空中散布資器材（バケット他）購入
	4月	○大規模山林災害総合訓練実施（甘木市大字菩提寺）
	5月	○全国植樹祭に伴う警備実施（夜須町大字櫛木）

年 次		主 な で き ご と
平成4年	6月	○職員1名退職 職員98名となる
	7月	○甘木・朝倉危険物安全協会、平成4年度消防関係安全功労者消防庁長官表彰を受ける
	10月	○完全週休二日制を実施
平成5年	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（東部分署配置）
	4月	○職員3名採用 職員101名となる ○幼年消防クラブ（40団体）発足 ○甘木朝倉少年婦人防火委員会、名称を変更し甘木・朝倉幼少年婦人防火委員会となる
	6月	○甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字田中） ○甘木・朝倉危険物安全協会、名称を変更し甘木・朝倉防災協会となる
	7月	○甘木・朝倉危険物安全協会、平成5年度安全功労者内閣総理大臣表彰を受ける
	9月	○大規模山林災害総合訓練実施（杷木町大字志波）
	11月	○甘木・朝倉防災協会より、内閣総理大臣表彰に伴う記念事業として防火広報車の寄贈を受ける（予防課配置） ○緊急通報システム（あさくらあんしんライン）実動開始 ○消防緊急通信指令施設〔Ⅱ型〕導入に向けて通信指令室を増築
平成6年	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入（朝倉出張所配置）
	4月	○職員1名理事長事務部局に出向 実員100名となる ○職員15名採用 職員115名となる
	9月	○司令車2台購入（東部分署、西部分署配置）
	10月	○大規模山林災害総合訓練実施（夜須町大字三箇山）
	12月	○消防本部（署）庁舎改修工事完成
平成7年	2月	○職員1名退職 職員114名となる ○司令車購入（東出張所配置） ○消防緊急通信指令施設〔Ⅱ型〕実動開始 ○阪神・淡路大震災に伴う応援出動（タンク車1台）
	3月	○甘木・朝倉消防署東出張所落成 ○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入（東出張所配置） ○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（東出張所配置） ○事務連絡車1台購入（総務課配置） ○職員1名退職 職員113名となる
	4月	○東出張所開庁

年 次		主 な で き ご と
平成7年	4月	○職員2名採用 職員115名となる
	8月	○人員輸送車〔29人乗り〕購入（総務課配置）
	10月	○開庁30周年記念式典開催
		○消防本部「30年のあゆみ」発行
平成8年	3月	○化学消防ポンプ自動車〔Ⅰ型〕購入（本署配置） ○救急自動車〔2B型〕購入（東部分署配置） ○職員1名退職 職員114名となる
	4月	○職員1名採用 職員115名となる
	11月	○高圧空気ガス製造施設設置
平成9年	3月	○消防ポンプ自動車〔CD－Ⅰ型〕購入（本署配置） ○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置） ○救急自動車〔2B型〕購入（本署配置） ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良表彰を受ける
	4月	○職員1名採用 職員116名となる ○職員1名退職 職員115名となる
	6月	○福岡県救急医療情報システムのパソコン設置 ○甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字田中）
	8月	○司令車購入（本署配置）
	10月	○司令車購入（朝倉出張所配置）
	11月	○集団救急事故訓練実施（甘木鉄道）
平成10年	1月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕寄贈を受ける （朝倉出張所配置）
	3月	○職員1名退職 職員114名となる
	4月	○職員1名採用 職員115名となる
平成11年	1月	○障害者用緊急通報ファクシミリ電話運用開始
	2月	○職員1名退職 職員114名となる
	3月	○高規格救急自動車購入（本署配置） ○職員2名退職 職員112名となる
	4月	○救急伝送受信装置締結（久留米大学病院・高度救命救急センター） ○高規格救急自動車運用開始、救急救命士実働開始
	10月	○筑後地区消防設備士会甘木部会より一体型液晶ビデオ映写機の寄贈を受ける （予防課配置）
平成12年	2月	○甘木ライオンズクラブよりレサシアン3体の寄贈を受ける
平成13年	1月	○財団法人日本消防協会よりリトル・アン20体の寄贈を受ける

年 次		主 な で き ご と
平成13年	2月	○財団法人日本消防協会より防災広報車の寄贈を受ける（本署配置）
	3月	○高規格救急自動車購入（西部分署配置） ○甘木ライオンズクラブより防災用資材運搬自動車の寄贈を受ける（本署配置） ○職員1名退職 職員111名となる
	4月	○職員1名退職 職員110名となる ○職員2名採用 職員112名となる
	6月	○庁用車購入（総務課配置）
	11月	○はしご付消防ポンプ自動車〔30m級〕購入（本署配置）
平成14年	1月	○社団法人日本損害保険協会より救助工作車の寄贈を受ける（本署配置）
	2月	○甘木・朝倉広域市町村圏事務組合消防委員会（委員15名）を設置する
	3月	○財団法人日本防火協会より防火広報用視聴覚資器材補助金の交付を受ける
	4月	○職員1名採用 職員113名となる
	5月	○福岡県・甘木朝倉地区合同総合防災訓練実施（甘木市大字長田）
	6月	○職員1名退職 職員112名となる
平成15年	3月	○消防総合OAシステム導入 ○職員4名退職 職員108名となる
	4月	○職員4名採用 職員112名となる
	5月	○予防指導車購入（予防課配置）
	8月	○消防総合OAシステム第2次導入
	11月	○高規格救急自動車購入（東部分署配置）
平成16年	1月	○甘木・朝倉消防本部基本方針決定
	4月	○福岡県総務部消防防災安全課へ実務研修として1名派遣（1年間）
	6月	○福田婦人防火クラブ発足
平成17年	2月	○甘木ロータリークラブよりエアータントの寄贈を受ける
	3月	○職員1名退職 職員111名となる
	4月	○職員2名採用 職員113名となる ○安川婦人防火クラブ発足
	5月	○開庁40周年記念式典開催 ○甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字田中）
	9月	○蜷城婦人防火クラブ発足
	12月	○金川婦人防火クラブ発足 ○甘木女性防火クラブ発足
平成18年	3月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（西部分署配置） ○高規格救急自動車購入（朝倉出張所配置）

年 次		主 な で き ご と
平成18年	3月	○職員1名退職 職員112名となる ○三奈木婦人防火クラブ(昭和56年11月発足)の事務局を公民館に移管 ○甘木市少年消防クラブを朝倉市少年消防クラブに改名
	4月	○職員3名採用 職員115名となる ○朝倉市少年消防クラブ比良松中学校班、杷木中学校班設立 ○上秋月婦人防火クラブ発足
	5月	○筑後地区消防設備士会甘木部会を筑後地区消防設備士会朝倉部会に改名
	7月	○高木女性防火クラブ発足
	10月	○指揮車購入(本署配置)
	12月	○秋月婦人防火クラブ発足
平成19年	1月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入(東部分署配置)
	3月	○職員3名退職 職員112名となる ○朝倉市少年消防クラブ、県知事表彰を受賞 ○財団法人日本防火協会より防火防災訓練用資器材補助金の交付を受ける
	4月	○福岡県消防学校へ教官として職員1名派遣(2年間) ○職員3名採用 職員115名となる
	5月	○金川婦人防火クラブを金川女性防火クラブに改名
	6月	○防火広報車購入(予防課配置)
平成20年	2月	○高規格救急自動車購入(本署配置)
	3月	○職員2名退職 職員113名となる
	4月	○職員2名採用 職員115名となる
	9月	○筑後地区消防設備士会朝倉部会、創立40周年記念事業で高齢者世帯(250世帯)に住宅用火災警報器を設置
平成21年	2月	○高規格救急自動車購入(西部分署配置)
	3月	○職員3名退職 職員112名となる
	4月	○職員4名採用 職員116名となる
	8月	○IP携帯位置情報表示装置運用開始
	11月	○司令車購入(西部分署配置)
平成22年	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入(朝倉出張所配置)
	3月	○はしご付消防ポンプ自動車〔30m級〕オーバーホール ○職員5名退職 職員111名となる
	4月	○職員7名採用 職員118名となる
	8月	○司令車購入(東部分署配置)
	12月	○消防本部庁舎耐震診断実施

年 次		主 な で き ご と
平成23年	2月	○朝倉自家用自動車協会より高規格救急自動車の寄贈を受ける（本署配置） ○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置）
	3月	○東日本大震災に伴う緊急消防援助隊（消火隊）派遣 ○職員6名退職 職員112名となる
	10月	○消防緊急通信指令システム改修工事
	12月	○消防本部庁舎耐震補強工事
平成24年	1月	○指揮車購入（本署配置）
	3月	○消防ポンプ自動車〔CD-1型〕購入（本署配置） ○東出張所庁舎耐震診断実施
	4月	○職員5名採用 職員117名となる
		○筑後地域消防通信指令事務協議会設置（8消防本部）